

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

ユカテク・マヤ語 (特集・世界の言語70+1(下) : 66)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 八杉, 佳穂 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5662

ユカテク・マヤ語

八杉佳穂

【主な使用地域】

メキシコのユカタン半島一帯。話者は、1980年の統計によると、665,377人(5歳以上)です。近い言語にモパン語、イツァ語、ラカンドン語があります。



【文字と発音の話】

スペイン人征服後の一六世紀より、正書法は確立していますが、その書き方は、地名や名前に残っているだけで、現在ユカテク・マヤ語を話している人々にとつて、ユカテク・マヤ語を記述する機会はほとんどありません。ユカテク・マヤ語を記述する人は、民話の採集者や言語学者であり、その人達は、あるときには伝統的な正書法を用いたり、またあるときには音声記号を用いたりしており、いくつかの書き方があります。そこで音声記号を用いて、どのような音をもつ言語が簡単に記します。伝統的正書法はそれは異なる文字が使われる場合のみ、代表例を括弧に入れて示すことにします。閉鎖音系には p, t, c (tz), χ (ch), k (c) があり、これと対立する形で、声門閉鎖音 p' (pp), t' (th), c' (o), χ' (ch), k' (k) と b, r があります。声門閉鎖音は、マヤ諸語の特徴となる音で、喉を閉めたような感じのするなかなか発音の難しい音です。そのほか子音には s, s (x), h, m, n, l があります。母音は i, e, a, o, u の五つで、長短の区別があります。

【言葉の背景】

ユカテク・マヤ語は三〇あまりの言語からなるマヤ語族のうちの一つです。マヤ語族は、大きく高地言語群(おもにグアテマラ高原地帯で話されている)と低地言語群(ユカテク・マヤ語等)に分けられます。

ユカテク・マヤ語の特徴を簡単にいうと、前置詞言語で、語順は VOS か、 SVO が一般的です。しかしここで V (動詞) というのは、正確には、動詞に主語や目的語を表わす人称が義務的についた動詞句をさします。それゆえ、抱合的な言語ということができます。また時制よりも相の区別(動作が終わったか、終わっていないかの区別)をする言語です。人称は二つの異なる組があり、所有を表わす人称と他動詞の主語とが同じで、他動詞の目的語と自動詞の主語を表わす人称が同じですので、能格言語ということもできます。

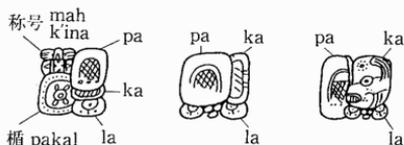
一六世紀以来、ユカテク・マヤ語の研究は続いており、莫大な文献があります。文法書はいくつかありますが、どれももう一つという感じです。次の本は入門用タイプのテキストですが、文法的な記述も記されており、お薦めです。

【文化情報】

ユカタンは、マヤ文明の遺跡が点在しており、また東海岸はカリブ海です。誰が有名観光地として知られています。誰もが行く有名な遺跡にはウシュマルやチエン・イツアがあげられますが、そのほかにも、手軽に訪ねることができ遺跡がたくさんあります。その周辺にある町や村では、ユカテク・マヤ語が話されており、簡単に言葉を聞くことができま

す。またユカテク・マヤ人はとても暖かい親切な人々なので、言葉を学ぶのも比較的容易です。

ユカタンの家は、壁が楕円形で、屋根はウチワヤシ葺きの特徴ある形をしています。風土にあっているのか、涼しく快適ですが、一室しかなく、家財も衣装箱と祭壇があるくらいで、寝起きはハンモックです。主食は焼き畑でつくるトウモロコシで、ふつうトルテイリヤ（マヤ語でワフ）というクレープのようなものにして食べます。マヤ人は、かつて栄えたマヤ文明の子孫ですが、いまではマヤ文明との関係など想像もできないほど、たいへん素朴な生活をしています。



マヤ文字の例

「捕える」と読んで問題ありません。もう一つの例として人の名前を挙げますと、桶を表わす表意文字と音節文字の両方で書かれていた王様がいました。桶はユカテク・マヤ語で *pakal* といいますが、音節文字で *pa-ka-la* とも書かれていました。このように、おもにユカテク・マヤ語を利用して、マヤ文字の解説は進んでいます。

マヤ文明といえば未解読のマヤ文字が浮かびます。マヤ諸語のなかでも解読のためにもっとも役に立っている言語がユカテク・マヤ語です。もちろん、文字が記された最盛期から一三〇〇年あまりたっているのですが、そのまま利用できることは少ないのですが、それでもたくさん

文字をユカテク・マヤ語で読むことができます。例えば戦闘的であったマヤ人は多くの征服を記録していますが、捕虜を捕えた文字はユカテク・マヤ語の *chuk-pakal* と読んで問題ありません。もう一つの例として人の名前を挙げますと、桶を表わす表意文字と音節文字の両方で書かれていた王様がいました。桶はユカテク・マヤ語で *pakal* といいますが、音節文字で *pa-ka-la* とも書かれていました。このように、おもにユカテク・マヤ語を利用して、マヤ文字の解説は進んでいます。

Blair, Robert W. and Rejungio VermontSalas, *Spoken Yucatec Mayan* (1979) Lucas Brothers Publishers. (元 Department of Anthropology, University of Chicago, Microfilm Collections の一として出版 1965-7)

辞書としては、次のものが最大のもので、薦められます。これはそれまでに出版された辞書を総合したものです。

Barrera Vasquez, Alfredo (ed.), *Diccionario maya cordemex* (1980) Ediciones Cordemex, Mexico.

歴史的な文書も沢山ありますが、そのうちもっとも有名なものは、チラム・バラムの書と一括して呼ばれる文書で、発見された村の名を冠して、『チュマイエルのチラム・バラムの書』とか『ティシミンのチラム・バラムの書』とか呼ばれています。内容は、神話や伝説、予言、医療など多岐にわたり、言語ばかりでなく文化を研究するための重要な資料となっています。そのうちの二つを紹介します。

Roy, Ralf L. *The Book of Chiam Balam of Chumayel* (1967) University of Oklahoma Press.

(やすぎよしほ・言語人類学)